

転倒災害防止に取り組みましょう

ポイント1: 転倒災害の特徴を知ろう

【転倒災害の特徴】

- ▶ 全業種において発生する
- ▶ 高齢層による災害が多い
50歳以上の労働者が7割を占める
- ▶ ケガによる休業期間が長期化の傾向
休業1か月以上が半数を占める



鶴見労働基準監督署管内における転倒災害の状況や転倒災害

防止チェックリストは
こちら



全労働災害の
約4分の1は
転倒災害です

令和4年(9月末現在)は約32%

第13次労働災害防止計画期間中の鶴見労働基準監督署
管内における休業4日以上労働災害件数
(新型コロナウイルス感染症り患件数除く)



さらに・・・

❄️ **冬季** においては、路面凍結による転倒災害が多発します。

積雪のあった翌日や放射冷却による低温の日においては、路面(特にグレーチングやマンホール)が凍結等により滑りやすくなります。

気象情報を確認して、凍結が懸念される日は、滑りにくい靴を選択し、いつもより時間に余裕をもって行動しましょう。

参考 令和4年1月6日の積雪後の路面凍結による休業4日以上労働災害
(鶴見労働基準監督署管内)

5件発生・・・1月に発生した労働災害の22%、転倒災害の35%
うち4件が翌早朝(1月7日午前6時から8時まで)に発生し、
4件は骨折(後頭部を負傷した場合は大事に至ることも)



ポイント2: 転倒災害により職場がどのような影響を受けるか考えよう

【事業者の視点】

- ▶ 被災者の業務の穴埋めのための人員補充又は配置換の検討
(うまくいかないと一部の労働者に負担がかかり過重労働の懸念も)
- ▶ 労災手続、労働者死傷病報告(休業の場合)の作成及び提出
- ▶ 原因調査及び再発防止策の検討
- ▶ 被災者対応
(場合によっては安全配慮義務不履行を問われることも)

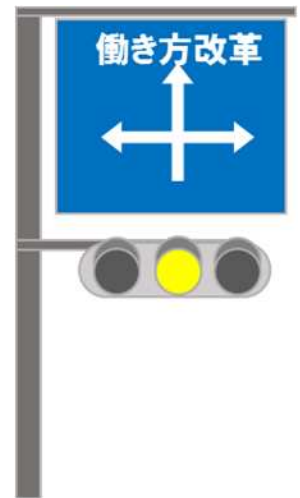
【被災者本人の視点】

- ▶ 身体的苦痛(傷病部位の痛み)
- ▶ 精神的苦痛(仕事の心配など)



【同僚労働者の視点】

- ▶ 人員減による業務集中
→ 時間外労働の増加
→ 過重労働の懸念



ポイント3: 転倒災害防止のために職場内等を見直してみよう

もの(ハード面)

施設・設備

十分な明るさ(照度)の確保
照度の確保は生産性向上にも寄与します



通路・階段・出口の4S

床の(水たまり)油粉類等の除去



定期的な職場巡回で安全な職場環境を!

転倒リスクのある箇所への注意喚起標識の設置

職場のヒヤリとしたところやハッとしたところなどに、注意喚起標識等を設置しましょう



つる美ちゃんステッカー (鶏見署HPから入手できます)

装備

靴の選択

- ・サイズ
- ・耐滑性
- ・トゥスプリング

つまずき防止のためトゥスプリングが高い靴を選択しましょう



靴の摩耗確認 (摩耗状況点検者の選任)

静摩擦が不十分で滑り発生!

動摩擦が高いと転倒回避!

『スーパーマーケット店舗内の滑りやすさマップ滑りによる転倒災害を防止しましょう!』より

動摩擦が不十分で転倒

滑りのメカニズム

ひと(ソフト面)

身体

転倒等リスク評価セルフチェック (中災防)

(<https://www.jisha.or.jp/order/korobi/>)

意識と身体機能を測ることで自身の転倒リスクの見える化(現状把握)を行いましょう。



転倒予防のための運動(ウォーキング・ジョギング)

ストレッチや転倒予防体操の実施

(転倒予防に効果的かつ簡単にできる体操はコチラ↓)



↑動画 転倒・腰痛予防!「いきいき健康体操」解説書↓
(令和元年度厚生労働科学研究費補助金 労働安全衛生総合研究事業「エビデンスに基づいた転倒予防体操の開発およびその検証」の一環として製作)
この体操は第94回全国安全週間鶴見地区推進大会でも実演していただきました。

行動

歩きスマホやハンドポケットの禁止

歩くこと以外のこと集中してしまうと、周りへの注意が散漫となり転倒する要因となります。また、手をポケットに入れて歩くことは、転倒の際大けがにつながるがあるので絶対にやめましょう。

歩きスマホしていると・・・



相手にもケガをさせてしまうかも...
大事なスマホを落とし壊れてしまうかも...
いいことなしです!

教育

転倒を予防するための教育

・厚生労働省ホームページの利用



ここをクリック
各種教育資料や視聴覚資料を豊富に取り揃えています

・事業場外資源の利用



神奈川産業保健
総合支援センター

その他

ハザードマップの作成(危険の見える化)
気象情報(大雪・低温等)の活用によるリスク低減の実施
転倒予防関係リーフレットの回覧等による労働者への周知(リーフレットはコチラ↓)

リスクを摘み取って
安全安心な職場をつくろう



STOP! 転倒災害プロジェクト



転倒・腰痛予防の取り組み

こちらのリーフレット(厚生労働省HP)も参考にしてみよう

高齢者の安全と健康確保のためのガイドライン

